

演題名	燃料価格高騰期における電気代の削減		
施設名	ケアセンターけやき	(ふりがな) 発表者(職種)	ささかわ よしひろ 笹川 義弘 (介護福祉士)
(ふりがな) チーム名	ケアセンターけやき <small>でい-えつくすいんかい</small> Dx委員会		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取組種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	感染症対応で換気優先として上昇していた電気代は、世界的情勢の影響も受けて更に高くなりました。コロナウィルス感染症も5類移行となり、節電をテーマとして電気代の削減に取り組むこととしました。けやきは、電気代の基本料のベースとなるデマンド値を計るシステムを取り入れていたので、そのシステムを活用して改善できると思いました。		
改善の指標と その目標値	指標: 基本料のベースとなるデマンド値を理解してデマンド値が上がらない対応、節電対応を心掛け、電気代削減を目指します。(デマンドシステム) 目標: ①基本料金を昨年同時期比 23%削減する ②電力使用量による料金を昨年同時期比100%とする		
実施した対策	<ul style="list-style-type: none"> ・節電機能のあるウオッシュレットの設定 ・節電POPの更新と呼びかけ ・空調温度変更時のルール再共有 ・デマンド値上昇時の節電対応(電源OFF)、残業時の場所指定指示と電源OFF ・デマンドシステムの勉強会、各職員への同勉強会受講促し ・デマンド値及び使用量の共有 		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前)デマンド値に関して 理解している 26% 利用量に関して意識していない、節電に動けていない 28% (実施後)デマンド値に関して 理解している 47% 利用量に関して意識していない、節電に動けていない 12%		
歯止めと 標準化	標準化: 電気使用量が多くなる夏季(7月~10月)、冬季(12月~2月)にデマンド値の測定、周知を行う 管理: 月に1度施設のエアコン設定温度(節電対応物品)を確認し、適温に設定・指導を行う 教育: 年に1度デマンドシステムについて、各部署で説明を行う		
活動の種類 ※複数選択可	①職場単位の活動 ②複数の職場が連携した活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動	チーム メンバー (職種)	1 笹川 義弘 介護福祉士
活動の場 ※複数選択可	③管理部門 ④その他		2 松崎 裕統 言語聴覚士
活動期間	令和5年5月 ~ 令和5年11月		3 金井 卓己 理学療法士
リーダー名 (職種)	松崎 裕統 (言語聴覚士)		4 吉田 卓 作業療法士
活動回数	15 回		5 松尾 延介 ケアマネージャー
			6 島田 聡美 ケアマネージャー
			7 松井 優果 介護福祉士
			8 斎藤 優 ケアワーカー
			9 平井 敏男 介護福祉士
			10 阿部 慎太郎 介護福祉士
			11 島山 智貴 事務

【現状把握】

- ・電気代が上がっている (1)
 - ・世界的情勢による価格の上昇（ウクライナ戦争による燃料輸入価格上昇）
 - ・円安（購入価格の上昇）
 - ・新型コロナウイルスの影響（回復にあたり供給が追いつかない）
 - ・再エネ賦課金の上昇



・電気代が上がっている (2) -A

・感染対策として常時換気間の基本値増加（コロナ対策が初期のまま）

月別	年別	2022年度		2023年度	
		基本料金のベースとなる値	使用量による料金のベースとなる値	基本料金のベースとなる値	使用量による料金のベースとなる値
4月分	21/4	182	26225	172	26227
5月分	4/5	182	25549	172	25149
6月分	6/6	182	24781	172	
7月分	6/7	182	26860	172	
8月分	7/8	172	48879	157	
9月分	8/9	172	46112	155	
10月分	8/10	172	28942	155	
11月分	10/11	172	25585		
12月分	11/12	172	28818		
1月分	12/1	172	39160		
2月分	1/2	172	42862		
3月分	2/3	172	33889		

デマンド値 → 基本料金のベースとなる値
使用量 → 使用量による料金のベースとなる値

・電気代が上がっている (2) -B

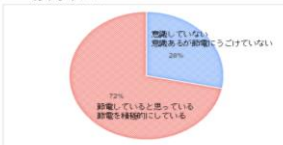
・電気代に関する理解や節電意欲



デマンド値に関して？



電気利用量に関して意識したことはありますか？



外部的要因

- ・輸入価格の上昇
- ・円安
- ・新型コロナウイルス

内部的要因

- ・節電意識の欠如
- ・デマンドシステムの認識・理解不足

【目標設定】

11月までに8月～10月利用分の

① 基本料金を昨年同時期比 23%削減する。

→ デマンド値をあげないことで達成

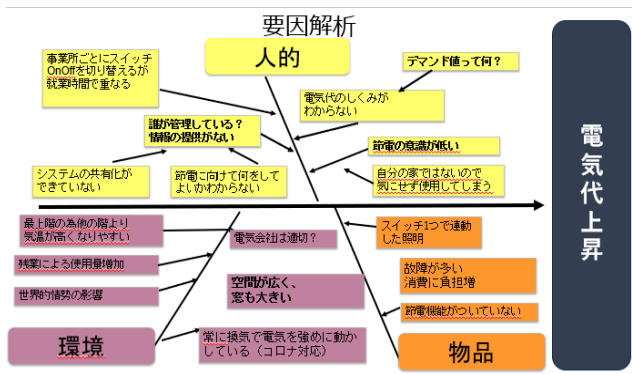
23%

② 電力使用量による料金を昨年同時期比100%とする。

→ 利用時間単価が上がっているため、月平均32554kWhを超えなければ達成

100%

【要因解析】



電気代上昇した要因

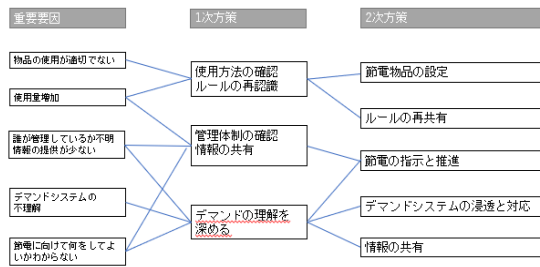
- ・節電意識が低い
- ・物品の使用が不適切
- ・電気機器の使用数、時間の増加
- ・デマンドシステムがわからない
- ・節電の為何をしたら良いかわからない

要因解析：重要要因の検証

現状	要因の発覚	特性値への影響	判定
世界的情勢の影響	燃料価格の高騰 利用時間単価の上昇	電力会社の要約を 自力での変更が不可	×
物品の使用が適切でない	節電機能のある物品（ウォッシュレット）は非節電モードで稼働している。	節電機能のある物品は、設定をかえることを進めて効果を高める	○
使用量増加	コロナ対応で換気しながらの空調利用 残業増加 経年劣化により故障前の運用	ルール変更や意識した使用を推進しないと、減らされない。	○
誰が管理しているか不明 情報の提供が少ない	共有部門は事務形態、他、部署ごとの管理だが、主とした担当がまわっていない 担当者全員が指図の音が職員まで届いていない。	使用状況を確認していないと無駄な電気を（使用または設定以上の電気を）使っている。	○
デマンドシステムの不理解	デマンドシステムはあるがデマンド値への理解が低い	システムがあることを知らない職員も多い 理解すると節電のタイミングや理由が伝えやすい	○
節電に向けて何をしてよいかわからない	ボスターの推奨やエアコンの設定温度を守るよう連絡している。	定番ボスターの劣化やルール変更があるため共有できていない	○

【対策の立案と実施】

対策の立案



対策の検討

対策	効果	実現性	経済性	継続性	重要性	緊急性	得点
節電物品の設定	3	5	4	2	3	3	20
ルールの再共有	3	4	3	3	4	4	21
節電の指示と推進	4	4	3	5	5	4	25
デマンドシステムの説明と対応	3	4	3	3	5	4	22
情報の共有	3	3	3	4	4	3	20

対策の実施

NO	対策 (why)	when	where	who	what	how
①	節電物品の設定	7月1日	各トイレ	松尾 島田	ウオッシュレット節電機能 節電POP	確認して設定する リニューアル
②	ルールの再共有	6月1回	各部署	全DX委員	空調温度変更のルール	再共有する
③	節電の指示と推進	7月1日～	各部署	全DX委員	電灯や空調	節電の指示をする ON/OFFのコントロールをする
④	デマンドシステムの浸透と対応	6月中	各部署	島山	デマンドシステム	説明会を設定する
⑤	情報の共有	7月1日～ 10月3日	各部署	全DX委員会	デマンド値	朝日値の共有をする

対策内容

1. 節電物品の設定
2. ルールの再共有
3. 節電の指示と推進
4. デマンドシステムの浸透と対応
5. 情報の共有

対策の実施①節電物品の設定



対策の実施②ルールの再共有

主任会議で共有
る
新札及び各委員会を通じ
各部署への周知

夏期のエアコンの温度設定を25度
に設定

変更の際は上長への許可制



対策の実施③節電の指示と推進



対策の実施④デマンドシステムの浸透と対応



対策の実施⑤情報の共有

メッセージの詳細	
送信日時	令和5年10月10日(木)18:13
差出人	知成 知成 (設備電議(コアセンター)はやき)
宛先	DX委員会
デマンド値 (10/8)	
10/8	
ピーク時	22
使用量	410

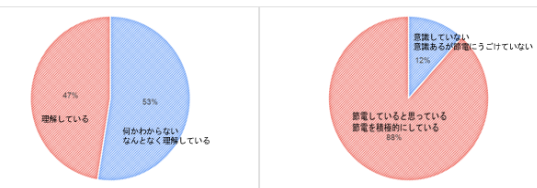


【効果の確認】

効果の確認

デマンド値に関して？

電気利用量に関して意識したことはありますか？



理解している
26% → 47%

節電している
72% → 88%

効果の確認

11月までに8月～10月利用分の

① 基本料金を昨年同時期比 23%削減する。 → デマンド値をあげないことで達成

デマンド値	最高値
8月 (157kW)	113kW
9月 (125kW)	110kW
10月 (112kW)	102kW

23
%減

② 電力使用量による料金を昨年同時期比100%とする。

→ 月平均32554kWを超えなければ達成

使用量 (平均)	使用量 (平均)
37109kW(目標値 32554kW)	35092kW

8
%増

有形効果

・電気代 基本料金の削減

→ 昨年同期比 **179,250円**減

・デマンドシステムの活用



無形効果

・連携・協力できる関係性向上

・節電意識の向上



波及効果

・「気づき」の増加



【標準化と管理の定着】

標準化と管理

区分	対策 (why)	when	where	who	what	how
管理	節電対策	月1回	各部署	Dx委員会	節電対応物品 エアコン	確認し調整する
標準化	デマンド数値の周知	7月～10月 12月～2月	Dx委員会	DX委員	デマンド閲覧サイト	デマンド値を共有
教育	デマンドシステムを理解する	年1回	各部署	DX委員	デマンドシステム	説明する

【反省と今後の進め方】

反省と今後の課題

活動内容	良かった点	悪かった点
テーマの選択	費用削減の幅が大きいものをタイムリーに選定しました。	特になし
現状把握	共有アプリを介してアンケートをスムーズに実施できた	特になし
目標設定	デマンド値をコントロールできるタイミングであった。	使用量に関して、単価が上がっている分の削減目標としたが、違う設定も検討できた
要因解析	アンケートや各部署独自の理由を知った上で解析が行えた	解析をもう少し掘り下げれば更に要因を出すことができたかも
対策立案	全職員が一掃になってできる対策を立案できた	特になし
対策実施	各部署、個々の理解を得て協力して円滑に実施できた	特になし
効果確認	波及効果の「気づき」が増えたことは、節電だけでなく利用者に対しても活用できる	デマンドの理解をもっと高められると思っていましたが、共有する方法を再検討
標準化	現状把握ができた事で、足りない部分がわかり対応できるようになった	特になし
まとめ	一つの目標に対し全職員が関わった事でチームワークが強化できた	PCが苦手な人などのような対応をすれば良いか考える必要あり